

ひと語り もの語り

楽の道に進んだ。

1931年(昭和6年)生まれの望月さんは、幼い頃から母親とコンサートに行ったり、琴を習ったりして音楽に親しんだ。釧路高等女学校(現釧路江南高)を卒業後、音楽教室で声楽を学び、NHK釧路放送合唱団に入った。「戦争が終わって釧路でも文化活動が一気に盛んになり、夢中で歌っていましたね」

20歳の時、合唱団で出会った正修さんと結婚。正修さんの転勤で道内外に住んだが、行く先々で合唱団やサークルに入って歌を続けた。長男俊哉さん(66)は道内で音楽教師となり、3人の息子全員が音

正修さんが定年退職した85

年、東京・目黒に夫妻の念願だったクラシックの名曲を流す音楽喫茶「カフェ・アンサンブル」を開店。グラントピアノを置き、演奏会の会場として貸し出したり、2階でプロの講師による音楽教室を開き、生徒らのコンサートを年に数回企画したりしている。望月さんもたびたび出演し、美声を披露してきた。

2012年に正修さんが亡くなった後も息子2人と店を続けてきたが、20年4月の緊急事態宣言で約2カ月間、休業することに。「何をしたいのかわからなくなりストレスだった」。心配した息子が、ちから動画投稿を提案され、同月から取り組み始めた。

早速、常連客や道内に住む俊哉さん、釧路の同級生から「元気をもらった」といった

声が寄せられた。これまでに「水色のワルツ」「朧おぼろ月夜」など思い出深い歌謡曲や季節の童謡、唱歌などを投稿。耳の衰えに不安もあると言うが、直哉さんは「声量や表現力はまだまだ健在。やめたらすぐに歌えなくなってしまうよ」と励ます。

今年11日に96回目の動画を投稿。100回が目前に迫った。望月さんは「次の歌をちゃんと歌うことが目標で、今はそれしか頭にない。準備が大変だけど、やろうと思ふ気力がある。歌が私を生かしてくれている」と舌を弾ませる。感染収束のめどは立たないが、音楽一家の思いが詰まった店内に、伸びやかな歌声が響く。



望月さんの動画はユーチューブの「カフェアンチヤネル」で公開中。

「友人・家族に元気な姿見せる」